

## コルカタ&ネパールホームステイプログラムに参加して

■参加期間 平成26年2月26日～3月20日（23日間）

### ■参加した理由

以前からマザーテレサの活動に関心がありマザーの施設でボランティア活動をしたいと思っていました。仕事を辞めたのをきっかけに「定年したら行こう！」と温めていた計画を「今行こう！」に切り替えました。

「ネパール」はインドの後にネパールでもボランティア活動に参加できると CEC で説明を受け、行ってみよう決めました。

### ■出発までの日々

マザーテレサに興味があったので「インド」という国を考えたとき、未知の世界で想像すら難しく望んで行く国では正直ありませんでした。プログラム参加者のたくさんの体験談を読み「大丈夫！」「迷っている方は是非行ってみて！」の言葉を励みに気持ちを整理しましたが、心は「不安」一色でした。

家族にとっても未知の世界で「なぜインドなのか？」と問う家族を説得し、自分も不安な気持ちを前向きに変えていこうと思いながら過ごしていました。

オリエンテーションの書類を読み返して持ち物をそろえたり、ホストファミリーのお土産を考えたり、ビザの手配のため証明写真を撮ったり、マザーテレサの本を読んだり何かと忙しい日々でした。

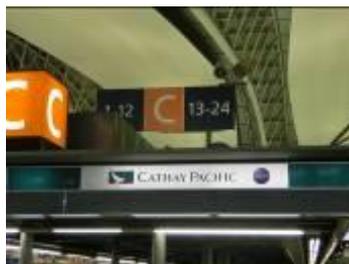
ようやく「(少し)楽しみ！」と思えたのは出発前日で、当日は「もう行くしかない！」と腹をくくる(!?)、そんな思いまでして行くのか・・・という感じでした。

### ■出発の日

キャセイパシフィック航空で関西国際空港から出発し台北と香港を経由して、コルカタ空港に向かいました。香港では5時間の待ち時間があり本を読んだり日本から持ってきたおにぎりやお菓子を食べて過ごしました。

香港からコルカタへの機内からは深夜だったのでとてもきれいな星空が見れました。飛行機が星に包まれたように上も前も下も窓いっぱいに見えて、不思議で美しい光景でした。

関西空港にて→



## ■コルカタに到着

空港に到着し、預けたスーツケースが出てくるのを待っていると数名の日本人を見かけました。そのうちの2人が同じプログラム参加者であることをカロールさん（現地コーディネーター）と会ったときに知りました。一人で日本を出て22時間後に到着しとても疲れましたが、カロールさんに会い、日本人の参加者にも会えてホッとしました。

空港迎えの車中でミネラルウォーターとコルカタの地図が配られ、翌日の予定をカロールさんが伝えてくれました。

車窓から夜のコルカタを眺めると、深夜0時でしたが人がまばらに歩いていたり、つながれていない犬が道路を歩いていたり、崩れた壁の建物が多くあったり、日本と全く違う風景にインドに来たことを実感しました。

ホストファミリー宅には午前1時に到着しましたが、ホストマザーや娘が出迎えてくださり3階自宅まで重いスーツケースを一緒に運んでくれました。翌朝の朝食時間をホストマザーに確認し、すぐ就寝しました。

コルカタ空港→



ホストファミリー宅の部屋→



## ■コルカタ半日観光(2日目)

コルカタに水曜日に到着し、翌日はマザーハウス（ボランティア）が休みのため半日観光がありました。

この日に両替をするのでお金とパスポートを持参し、その他の貴重品や荷物はスーツケースに入れ施錠するようカロールさんから言われました。

他の参加者4人と車に乗り込み、カロールさんが日本語でガイドをしてくれました。

訪れた寺院では土足厳禁のため裸足で見学したり、河で沐浴する人をたくさん見ました。

カロールさんが両替店に案内してくれ、パスポートのコピーを店員がとり8000円を両替しました。2週間(5泊6日の旅行を含め)の滞在中8000円すべてを使うことはありませんでした。その後デパートのレストランで昼食をとり、店を見て歩きました。

インド博物館のあたりで車を降り、カロールさんのガイドで繁華街を歩きました。ボランティア活動が終わった午後はだいたいこの辺で過ごすことが多いようで、トイレのあるマーケットや他の両替所、この場所からホストファミリーへの帰り方など教えてくれました。

私のホスト先だけバスで帰るコースのため、カロールさんの同僚がバスの停留所、バス番号、乗り方、運賃の払い方、降りる所、ホストファミリーの家まで親切に付いて教えてくれました。それでも次から一人でバスに乗ることを思うと「できるかな…？」と不安に思いました。

半日観光の様子↓(^)↓

フーグリ川とハウラー



ドッキネッシュヨル寺



パレシュナート寺院



ヴィクトリア記念堂→



### ■ ボランティア登録の日 (3 日目)

13 時にカロールさんが車で迎えに来られ、他の参加者と一緒にマザーハウスへ行きました。ボランティア登録にはパスポートが必要とのことで持参しましたが、この日は「登録ありません」の掲示があり登録できませんでした。理由は英語で書いてあったのかもしれませんが私には分からず、施設側の事情と思いました。

### ■ ボランティア初日 (4 日目)

エプロン、ビーチサンダル、バンダナ、小銭、カメラをカバンに入れ、それ以外の貴重品はスーツケースに入れ施錠してステイ先を出ました。

初日はクリアすべき難関がたくさんありました。バス停で手を挙げてバスを止め、乗り込み、降車する場所を見逃さないよう車窓を凝視し、車掌さんに運賃を払い、降車が近づくと出入り口に行き、車掌さんに「Ripon(リポン)ストリート！ マザーハウス！」を繰り返し伝えバスを止めてもらいました。降りてホッとする間なく、大きな道路を横断しないとマザーハウスへ行けないので、車が途切れるのを見計らって横断、やっとホッとできました。(初日は特に緊張しますが、すぐに周りの風景やバスの昇降にも慣れ、2 日目から自信も出てきます)

マザーハウスに 7 時ごろに到着しパンやチャイをいただきながら他のボランティアと話をしておりました。7 時半からシスターの話やお祈りの時間があり、その後それぞれボランティア先に行きます。

初日は登録がまだだったのでシスターに1日パスの申し込みをしました。この日が土曜日だったので土～月曜日までの3日パスをもらいました。活動先は2ヶ所しか選択できず、「シャンティダン」（精神障害の女性の施設）を希望しました。

また毎週日曜日に「ナポジボン」という施設でストリートチルドレンと過ごす活動があり翌日の申し込みをしました。ボランティアの人数制限があり抽選の結果が翌日発表されます。

「シャンティダン」にはバスと徒歩で行きます。台湾やヨーロッパ、アメリカなどから参加するボランティアもいました。7年ほど同施設でボランティアをしている日本人女性と、1ヶ月ほど活動している日本人女性が一緒だったので安心でした。しかし現場ではマーシーと呼ばれる施設で働く現地女性との会話は英語で最初は何を指示されているのか分からず何度か聞き返し日本人の方にも教えてもらいました。

施設に入居している女性は年齢はわかりませんが20歳代くらいから高齢者まで様々な年齢の方でした。妊娠している若い女性や、歩けず介護が必要な女性、目が見えない方、耳が聞こえない方など様々です。「ナマスター」と両手を合わせて挨拶すると笑顔で丁寧に両手を合わせてくれました。

活動内容は大部屋にずらっと並ぶ30床ほどのベッドのベッドメイキング、汚れたシーツの交換、洗濯（シーツ、毛布、衣類、下着など）、10時に30分ほど休憩し、その後はコミュニケーションの時間や繕いもの、昼食介助などです。洗濯機は無く足踏み洗い、手洗い、すすぎの工程を手分けしてこなします。毛布などはとても重たく、洗濯量も多く体力仕事でした。週に一度、マニキュアを塗る日があり、たくさんある色から好きな色を選ぶときの真剣な表情や塗った後の笑顔を見るとお洒落の大切さを感じました。

入浴介助や他の仕事を含めシスターやマーシーはとても忙しそうでした。私は数日間の活動でしたが、いろんな国からいろんな期間でやってくるボランティアの存在も大切と感じました。

翌日、「ナポジボン」で毎週日曜日にストリートチルドレンと過ごす活動に申込み、抽選の結果、行くことができました。（この日は「シャンティダン」の活動を休んで「ナポジボン」を選択しました）他のボランティアは中国人、台湾人、イタリア人、日本人など計13名です。日曜日なので普段活動先に行く人たちが休んでおり、施設の行き方がわかりませんでしたがバスに乗り、タクシーの運転手も道行く人に聞きながらやっと到着しました。

子供たちが三々五々集まってきて、ボール遊びや手遊び、髪結い、おんぶなどの遊びが始まりました。その後、男女に分かれて沐浴の時間で20人ほどの女の子が次々とやってきました。水を嫌がる子、ホースで遊ぶ子などにぎやかで、私たちは洗髪や更衣を手伝いました。

昼食は青空のもと、敷物が敷かれ子供は行儀よく座り食器や食事が配られるのを待ちます。「カレーはいらない」「ご飯は少し」などそれぞれに希望を伝えてきます。昼食が終わると子供達はおやつをもらって帰り、ボランティアは食器を洗って活動終了です。

子供達どうして年下の子の更衣を手伝ったり食事の面倒を見たり、助け合う姿が自然でした。

↓マザーハウス前でこの看板を持って行先を知らせてくれます。



↓このバスで施設まで行きます。



↓施設の建物



## ■食事

### 《ファミリー先の食事》

朝食はヌードル、トーストなど。ボランティア活動の日はマザーハウスで朝食（食パン、バナナ、チャイ）が提供されるので、ファミリー宅ではチャイだけでした。

夕食前の軽食が17時くらいに提供されました。焼き飯やヌードルなどです。最初はこれが夕食と思いましたが、19時半ごろに正式な夕食が用意されました。

ホストファミリーは軽食を18時くらいに食べ、正式な夕食を22時ごろ食べていました。夕食は一人で食堂で食べることが多かったです。住み込みのお手伝いさんが食事を作り、夕食は食堂に用意しそれ以外の食事は部屋に運んでくれました。夕食は毎回カレーでした。とても辛いけど美味しく、カレーの具が日によって変わりました。

### 《昼食》

ボランティア活動が終了後、他の参加者とマザーハウスで会い、昼食を食べに行きました。レストランでカレーなど食べましたが、レストランだから、と安心して飲んだラッシーは氷が水道水の可能性が高く、飲まないほうが良いとホストマザーに言われました。その後は瓶入りのジュースやペットボトルの飲み物を飲むようにしました。

## ■体調不良

6日目の明け方から胃痛と気分不良でトイレに何度か行きました。トイレから離れられない状態のためこの日のボランティアは断念し、カロールさんに電話で伝えました。

下痢止め薬は日本から持っていきましたが胃腸薬は思いもせず持ってこなかったことを後悔しました。帰りの関西空港の「健康相談所」でも下痢止め薬ではなく整腸剤を“次回は”持っていくことを勧められました。下痢を止めないほうが良いそうです。

熱も 38 度あり頭痛もしたので清涼飲料水の粉をミネラルウォーターで溶き、お粥を摂り、いっぱい汗をかいて翌日は熱も下がりボランティア活動をしました。

お腹の不調はぐずぐずと続き気分不良もあったのでカレーを食べる気にもなれず、レトルトの粥をたくさん持って来れば良かったと実感しました。帰国する日本人ボランティアから「残ったので」と親切にレトルト粥をいただきとても助かりました。

## ■ベンガル語レッスン

ホストマザーが毎晩 1 時間ほどレッスンをしてくれました。受け身にならず、いろんな質問をしたのでそこから話が発展していき、日常会話、インドの学校制度、文法、ベンガル語の書き方、インドの言語の種類など教わりました。日常会話はボランティア先の入居者との会話や挨拶に役立ちました。

## ■コルカタの街

毎朝 6 時 50 分ごろにバスに乗りマザーハウスに行きますが、あるバス運転手は道中、「お祈りスポット」で手を合わせることを 2, 3 回していました。運転中なのにスピードをゆるめ、手を合わせる姿を見て信仰心の深さを感じました。

バスの車窓からはタクシーがガソリンスタンドに 20 台ほどぎゅうぎゅう詰めになりガソリンを入れる風景がありました。インドの人は朝から仕事熱心でした。

交通事情は日本と違い、信号機はあるものの電気がついていないのか分からないので、車が途切れたのを見計らって道路を渡ります。うまく渡れないときはインド人の隣について気を付けて渡るようにしました。片側 3 車線の広い道路でたくさんの車が行き交いその間を信号も無く多くの人が渡っていくのですが、滞在中に人身事故は見かけなかったので車の運転手も横断する人も慣れてるようです。そんな中、バイクが車に軽く追突されたり、バイクと自転車の少年が軽く正面衝突する場面を見かけました。どちらもバイクのおじさんが相手に怒りに行くのを見て、日本で言う歩行者の安全優先ではないと感じました。

街では店の人や若者が声を掛けてきて、ボランティア仲間と歩いている時は気になりませんが、帰り道に一人で歩いている時は振り向かず速足で通り過ぎるようにしました。コルカタに限らず、観光地での物乞いの子供や物売りの声かけには関わらないのであれば「目を合わさず、何も言わない」のが一番良い方法だと感じました。

街を歩いているといろいろな動物を見かけます。たくさんの犬が道端で寝ていたり道を歩いていたたり、つながれている犬はおらず自由に町に住んでいる様でした。吠えられたり付いてくることはありませんでしたが素通りするよう心がけました。

ヤギや牛はつながれている姿を見ました。その他ネズミや猫、にわとりなどたくさんの動物を見かけました。

## ■5泊6日のインドツアー（3月5～10日）

インドに来たからにはタージ・マハルを見たいしガンジス河も見たい、と出発前にツアーに申し込みました。5泊中3泊が寝台列車という一見ハードな旅のようですが、他に5名の参加者と一緒にぎやかな修学旅行の気分でした。

出発地のハウラー駅は荷車で山のような荷物を運ぶ人々、物乞いの人たち、ホームは電車を待つ人で埋めつくされ、アップークラス（1等車など）や女性専用の待合室にはクッションのきいた椅子やエアコンが整備されるなど、いろんな光景を目にしました。

寝台車のシートやタオルはあまりきれいではありませんでしたが寝台は意外と快適で眠ることができました。（朝夕の車内は寒く、ジャケットが必須でした）

バナールスではリクシャーに乗りガンジス河に行きました。リクシャーは車道を走り、車やバイクの間をすり抜けたりと対向車線2車線を横切り渡るなど、スリル満点！命の保証・・・点の体験でした。ガンジス河でボートに乗り、素晴らしい日の出や河で身を清め朝日を拝む人、熱心に洗濯をする人や火葬場を見ました。（朝のガンジス河も寒かったです・・・）

2回目の寝台列車に乗り、翌朝はついにハージマハル観光です。入場の際、持ち物検査がありペンなどがった物や飲食物は持ち込み禁止、タージマハル内は土足禁止など世界の美しさを守っていました。

このツアー中はずっとインド人のガイドさんが付いてくれ、他にもたくさんの寺院や仏跡などを観光しましたがその都度、上手な日本語で案内してくれました。食事の辛さなども毎回気遣ってくれました。

インドの広大さ、歴史を肌で感じ、一緒に旅をした仲間、ガイドさんと時間を共有でき、楽しい思い出となりました。



↑夜行列車、出発～！  
寝台は落ちないか心配・・・



↑朝に列車が到着。  
今日はガンジス河観光の日。



←おじさんがボートを1時間ほど  
漕いでくれて・・・

ガンジス河の素敵な  
日の出が見れました→





↑長い道のりの末・・・記念の一枚



↑手で食べてみると楽しい～！

### ■コルカタ出発→ネパールへ（3月11日）

インドツアーから戻りホストファミリーで1泊した翌朝、カロールさんが空港まで送ってくださいました。

元気やパワーをたくさん与えてくれる、不思議な力を持つコルカタの街や人々の魅力にはまってしまい、2週間前に不安いっぱいでの到着した日が嘘のようです。

カロールさんと別れを惜しみつつ、空港からはまた一人。 受託荷物のX線検査を済ませ、チェックインし、搭乗。インディア航空は乗務員の制服がサリーで髪型も自由、機内食ももちろんカレーでした。

### ■ネパール到着

飛行機で1時間ほどでネパールに到着しました。  
現地コーディネーターのチェイワンさんが空港に迎えに来てくれ、ホストファミリー宅に着きました。

ファミリー宅でチェイワンさんが日本語でオリエンテーションをしてくれました。朝夕食の時間、停電時間、ボランティア施設についてなど1時間ほど話してくれました。またファミリー宅が友人とのことでトイレや浴室もチェイワンさんが案内してくれ驚きました。

オリエンテーションでは「とにかくネパールではこちらの習慣で過ごしてください」と何度も言われました。意味が分からず、私が明朝のボランティアに行く出発時間を聞くと「先のごことは心配しないで、今は今日の夕食時間と明日の朝食時間だけ覚えてください。明朝に出発時間を電話します。日本人は先のごことを心配しすぎます」とチェイワンさん。（翌朝、私宛に電話はありませんでしたがファミリーに電話があったようです・・・笑）

ネパールでは「先のごことは心配せず、そうなった時に心配したら良い」そうです。心配性の



↑チェイワンさん

私がこの考えを会得できたらどんなに楽だろう、と少し嬉しくなりました。

### ■ ボランティア初日

高齢者施設でのボランティアを希望し、すでに活動していた日本人ボランティア女性がファミリー宅からバス停までの行き方、バスの乗り方と支払い、降りる場所、施設での活動の内容など丁寧に教えていただきました。

(数日後に参加したボランティアにも初日はチェイワンさんのスタッフが同様に施設まで一緒に付き添い、施設で一緒にボランティア活動をしてくださっており安心しました)

活動内容は男女に分かれた2部屋のそれぞれ20床ほどあるベッドのベッドメイキング、汚れたシーツの交換、洗濯、入浴や食事の軽介助、昼食後の食器洗いなどです。

インド同様、洗濯機は無く小物から大物まですべて手作業です。しっかり絞れず竿に干しても水がしたたるのが常でした。

インド同様、大部屋のベッドには仕切りが無く、枕の下にはお菓子や食器、たばこが置かれていたりベッドの下には私物が置かれるなど個性があり、ベッドメイキングをしても元の状態に戻すよう心がけました。

施設の高齢者の方は英語が通じませんが、ここでも「ナマステー」の挨拶で素敵な笑顔を返してくださるので、私の緊張がほぐれました。

ボランティアは他にもヨーロッパ、ブラジル、メキシコ、シンガポールなど様々な国から参加しており、ネパールの学生や社会人も参加していました。

洗濯量やボランティアの数により時間は左右しますが、午前中で活動は終了しました。

### ■ ホストファミリー

ホストマザーは「ゲストではなく、家族の一員と思っている」と迎えてくださいました。4年間で80名ほどの日本人ボランティアを受け入れており、子供達も日本語で挨拶してくれたり平仮名を書くことができました。

ホストマザーのご両親も一緒に住んでおり、ご両親のお世話、子育て、仕事など大変なか、毎日メニューの違う美味しい食事を作ってくれたり、体調を気遣ってくれました。

このファミリーから愛情いっぱいの幸せな時間をたくさんいただきました。

↓ホスト宅でHoli祭り



ホストマザーにサリーを  
↓着せてもらった





↑ある日の朝食



↑ある日の夕食

## ■ネパール語レッスン

出発前のチェイワンさんのオリエンテーション書類に、チェイワンさんのオフィスで13:00~14:00にネパール語レッスンと書いてありました。初日の13:00にオフィスに着いてもすぐに始まる様子はなく、チェイワンさんが「お茶飲みますか？」と一緒に飲み、レッスンが始まったのは13:40でした。(これもネパール習慣!)

レッスンはチェイワンさんの同僚のロビンさんがしてくれました。ネパール語といっても民族によって言語が全く違い、ロビンさんは家族とネワール語(ネワール族の言語)で話し、ネパール語(公用語)も話すことができ、子供達は学校で英語ですべての授業を受けているなど、いくつもの言語を身につけていました。毎回分厚い資料を見ながらネパールの文化、歴史から最近の出来事まで多くのことを教わりました。

## ■パタンの街

この街でホームステイができて本当に良かったと思えるほど、古都の町並みはきれいで、買い物や食事、両替にも困りませんでした。裏道もたくさんあり近道が分かるともって便利でしょうが、迷いそうなので慣れた道ばかり歩きました。

ホストファザーに朝市に連れて行ってもらい、朝7時なのに多くの人が買い物に来ていました。ネパール人は毎日新鮮な野菜や果物をその日の分、買うそうです。お土産にぴったりのお店もたくさんあり、インドより多く小遣いを使いました。店によってはインドで余ったお金(インドルピー)が使えました。

インドでは見かけなかった、つながれた犬(飼い犬)をネパールで見ました。本来、つながれるべきなのでしょうが、インドで自由な犬をたくさん見たので飼い犬なのに自由がないような、気の毒な気持ちになりました。(インドからの更なるカルチャーショック!?)

↓朝市



↓パタンの街からヒマラヤが見えた!



## ■ナガルコット・バクタプル1泊2日ツアー（3月15～16日）

他の参加者3名と旅行会社のバンに乗ってナガルコットへ出発しました。街を離れ、途中に麦畑や段々畑が美しい田舎の風景を通りすぎ、曲がりくねった山道を上ったところにホテルがありました。私は「山道」「山のホテル」と感じましたが、ヒマラヤがあるネパールの人々はナガルコットも「丘」と呼びます。ちなみに富士山は？と聞くと「丘」と答える・・・少し複雑な気持ちでした。

ホテルの屋上からとてもきれいな夕日を眺め、夕食後に食堂でくつろいでいると「停電が22時から」と言われました。あわてて、部屋に戻り（久しぶりの!!）シャワーを浴びていると途中で停電・・・・・・・・やっぱりホテルでも停電するんだ、と思いながらまた新たな体験をしました。

翌日は5時に起き、6時に日の出を見ることができました。早朝は曇っていましたが9時には少し雲が晴れ、ヒマラヤの姿を見ることができました。

この日は春のお祭り「Holi」の日で、バクタプルへ行く道も、バクタプルの街もお祭り一色でした。色水や色粉を投げたり投げられたり、お祭りをめいっぱい楽しむことができました。

山のホテル→



←日の出



←雲が晴れてヒマラヤが見えた！

Holi 祭りに出発～→



## ■キルティプル観光（3月19日）

本来はバスでキルティプルの街の近くまで行き散策するのですが、この日はストライキのためバスが動かず、すべて徒歩で回りました。

とても疲れましたが、何よりチェイワンさんやロビンさんと一緒に歩き、自然や寺院、街やネパール文化などについてガイドして下さるので、とても貴重な一日でした。



## ■ネパール出発（帰国）

キルティプル観光の晩が帰国の日だったので、急いで荷物をつめ夕食を済ませると、もうお別れの時間でした。お別れの挨拶もそこそこに、20時にチェイワンさんが空港に送って下さいました。

ネパールはCECで勧められ「2ヶ国行けてラッキー！」くらいに考えていましたが、ネパールの人々、生活、環境にとっても癒され、1週間の滞在がとても短く感じました。

## ■気候について

インド（2月26日～3月11日）は朝夕は気温が少し下がりますが半袖とスカーフで過ごしました。日中は半袖と帽子で過ごしました。夜はかけ布団と言うより「かけ布」でとても薄いものだったので、少し寒いときは長袖Tシャツを着ました。

インドでは冬の終わりの時期だそうです、すでに蚊も飛んでました。

ネパール（3月11～19日）は朝夕は寒く、半袖Tシャツの上に長袖Tシャツ、その上に薄手のジャンパーとスカーフを身に着けました。午前10時くらいになると暖かくなり日中は暑くなるので半袖Tシャツで過ごしました。日中は日焼けもするので帽子などが必要です。

## ■持って行って良かったもの

- ・マスク（どちらの国も空気が悪く、乾燥して埃っぽいので毎日付けました）
- ・のど飴
- ・のどスプレー
- ・レトルトの粥
- ・ウェットティッシュ
- ・虫よけスプレー
- ・かゆみ止め
- ・カロリーメイトや日本のお菓子、ポタージュスープの粉（体調を崩した時でも食べられた）

- ・リンスイシャンプー（特にネパールはシャワーの回数が減るので手早く洗髪できた）
- ・汗拭きボディシート（特にネパールで、シャワーは週1，2回のため）
- ・スーパーの袋小さいサイズ（たくさん持っていきゴミを包んだり、トイレでペーパーが流せない時に使った）
- ・懐中電灯（停電中は真っ暗なので、しっかり発光するもの）
- ・小さな容器に入った液体せっけん（外出先、ボランティア先で使用した）
- ・薄手のゴム手袋（ボランティア先で使用した）

### ■予防接種について

A型肝炎、狂犬病、破傷風を受けました。

A型肝炎、狂犬病は3回注射が基本ですが、

2回まで済ませ参加しました。

### ■このプログラムに参加して

ずっとマザーテレサの施設でボランティアをしたい＝インドに行きたいと思っていましたが、初めて一人で行くには勇気があるし、このプログラムがなければ「夢」で終わっていたかもしれません。

一番必要な時間に真っ暗になる・・・

帰国して空港から乗ったバスは音声が消えた

ように静かな道路を走り、すぐにインドが懐かしくなりました。ネパール生活のおかげで、日本で水道の蛇口をひねる度に、また電気の明るさに感謝します。

それぞれの国での経験は、自分に何ができるか、何が幸せか、何が大切かを考える機会となりました。

また必ず訪問したい、そんなインド&ネパールです。

■名前（イニシャル） Y. K

■年齢 18～20歳 21～25歳 26～30歳 ○31歳以上

NO LIGHT (BLACK OUT)		SCHEDULE	
SUN	→	0800 - 1400 / 1800 - 2300	
MON	→	0600 - 1300 / 1700 - 2200	
TUE	→	0500 - 1100 / 1500 - 2100	
WED	→	0400 - 1000 / 1400 - 1900	
THU	→	0300 - 0900 / 1300 - 1800	
FRI	→	1000 - 1700 / 1900 - 2400	
SAT	→	0900 - 1500 / 1800 - 2300	

【↑ネパールの停電スケジュール】